

科 目 名	専門演習			担当教員:清水 かおり	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 6	月曜日・木曜日6限

1. 授業の概要

看護学教育、基盤看護学分野特論Ⅰ（看護教育学領域）、基盤看護学分野特論Ⅱ（看護教育学領域）、看護学教育分野における研究の動向を踏まえ、学生の関心あるテーマに即した研究を進めるための方法を指導する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた個別指導をする。

2. 到達目標

1) 論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。

2) 看護教育学領域における研究課題を発見し、看護教育の向上と発展へどのように貢献できるかを検討する。

3) 研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。

4) 一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。

5) 倫理審査申請書の作成を通して、研究における倫理的感性を高める。

3. 授業の計画と内容

第 1 週

修士論文とは、修士論文作成のプロセス

第 2 週

テーマ設定と関連文献の検索

第 3 週

文献検索と文献検討 ①

第 4 週

文献検索と文献検討 ②

第 5 週

研究デザインとは、研究デザイン構築

第 6 週

研究デザインの構築 ①

第 7 週

研究デザインの構築 ②

第 8 週

研究デザインの構築 ③

第 9 週

統計学的手法の理解 ①

第 10 週

統計学的手法の理解 ②

第 11 週

研究計画書の作成 ①

第 12 週

研究計画書の作成 ②

第 13 週

研究計画書の作成 ③

第 14 週

倫理審査申請書の作成 ①

第 15 週

倫理審査申請書の作成 ②

4. テキスト・参考文献

看護研究方法論で使用したテキスト:「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院

「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院

「ヘルスケアに生かすアクションリサーチ」岡本玲子他訳 医学書院

「考具」加藤昌治著 阪急コミュニケーションズ

5. 準備学習:

授業内容に該当するテキスト、資料を講読する。文献クリティーク、研究計画書の作成などの課題の提出をする。

6. 成績評価の方法

課題の内容(評価視点:テーマとの整合性, 論理的な文章構成)

20 点

授業中の活動(評価視点:コミットメント, 課題探求への姿勢, プレゼンテーションの適切さ)

20 点

研究計画書の作成(評価視点:計画書の内容, 研究方法の妥当性, 倫理性への配慮の記載)

60 点

合計

100 点満点

7. 履修の条件:看護研究方法論(1 前)、看護学教育(1 前)、基盤看護学分野特論Ⅰ(1 前)、基盤看護学分野特論Ⅱ(1 後)を履修済、あるいは履修中であること。

8. その他:修士論文作成の重要な科目であり、特別研究に継続する。

科 目 名		専門演習		担当教員： 玉井 なおみ	
科目名（英語）		Seminar in Nursing			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研5	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要：

がん看護学分野の研究の動向を踏まえ、院生が関心のあるテーマに即した研究を進めるための方法を学習する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて学び、研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて、適切なフィールドの選定、倫理的配慮、データ収集方法、分析方法などを検討する。自己の研究課題や研究方法の追求過程については、演習授業において発表し、討議を行う。実務経験のある教員が担当し、看護研究の意義と方法、科学的思考と看護学の発展と関連づけて理解を深める。

2. 到達目標：

① 論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。

② がん看護学分野における研究課題を発見し、看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。

③ 研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。

④ 研究課題に基づき、研究計画書を作成する一連の過程を通して、一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。

⑤ 倫理審査申請書の作成を通して、研究における倫理的感性を高める。

3. 授業の計画と内容

第 1 週

修士論文とは、修士論文作成のプロセス

第 2 週

テーマ設定と関連文献の検索

第 3 週

文献検索と文献検討 ①

第 4 週

文献検索と文献検討 ②

第 5 週

研究デザインの構築 ①

第 6 週

研究デザインの構築 ②

第 7 週

質的研究手法の理解 ①

第 8 週

質的研究手法の理解 ②

第 9 週

統計学的手法の理解 ①

第 10 週

統計学的手法の理解 ②

第 11 週

研究計画書の作成 ①

第 12 週

研究計画書の作成 ②

第 13 週

研究計画書の作成 ③

第 14 週

倫理審査申請書の作成 ①

第 15 週

倫理審査申請書の作成 ②

4. テキスト： 看護研究方法論で使用したテキスト

Denise F. Polit , Cheryl Tatano Beck (2004)／近藤潤子 監訳 (2010)：看護研究 原理と方法, 医学書院, 東京.

APA (2010)/ 江藤裕之他 訳(2011)：APA 論文作成マニュアル (第 2 版), 医学書院, 東京.

参考文献：適宜提示する

5. 準備学習：毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

課題の内容（評価の視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成）

20 点

授業中の活動（評価の視点：コミットメント，課題探究への姿勢，プレゼンテーションの適切さ）

20 点

研究計画書の作成（評価の視点：研究計画書の内容，研究方法の妥当性，倫理的配慮の記載）

60 点

合計 100 点満点

7. 履修の条件：看護学研究方法論Ⅰ，看護学研究方法論Ⅱ，臨床看護学特論Ⅰ，臨床看護学特論Ⅱを履修済，あるいは履修中であること。

8. その他：修士論文作成の重要な科目であり，特別研究に継続する。

科 目 名	専門演習			担当教員： 木村 安貴	
科目名（英語）	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研5	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要：

臨床看護学特論Ⅰ、臨床看護学特論Ⅱを通して、臨床看護分野での主になん看護の研究の動向を踏まえ、学生が関心のある研究課題に関連した国内外の文献クリティークを行う。文献クリティークを通して、研究手法、計画作成および論文作成過程を学ぶ。先行研究を読み込み、研究課題の絞込みを行い、倫理的配慮に基いた研究計画書の作成を行う。

2. 到達目標：

① 文献クリティーク方法を理解し、実践できる。

② 研究課題に関連した研究デザイン・研究手法を理解することができる。

③ 研究課題を見つけ、絞り込むプロセスを経て、決定することができる。

④ 倫理的配慮に基いた、がん看護学分野ふさわしい研究計画書を作成できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	修士論文とは、修士論文作成のプロセス
第 2 週	文献検索方法と文献リスト作成方法の理解
第 3 週	文献クリティーク①
第 4 週	文献クリティーク②
第 5 週	文献クリティーク③+量的研究デザインの理解
第 6 週	文献クリティーク④+量的研究における分析手法の理解
第 7 週	文献クリティーク⑤+質的研究デザインの理解
第 8 週	文献クリティーク⑥+質的研究における分析手法の理解
第 9 週	研究テーマに関する先行研究の検討
第 10 週	研究テーマの絞込み
第 11 週	研究計画書+倫理審査申請書の作成 ①
第 12 週	研究計画書+倫理審査申請書の作成 ②
第 13 週	研究計画書+倫理審査申請書の作成 ③
第 14 週	研究計画書+倫理審査申請書の作成 ④
第 15 週	研究計画書+倫理審査申請書の作成 ⑤

4. テキスト： 看護研究方法論で使用したテキスト

Denise F. Polit , Cheryl Tatano Beck (2004)／近藤潤子 監訳 (2010)：看護研究 原理と方法，医学書院，東京。
APA (2010)／江藤裕之他 訳(2011)：APA 論文作成マニュアル (第 2 版)，医学書院，東京。
参考文献：適宜提示する

5. 準備学習：課題提出

第 2～8 週 文献クリティークにおいては、授業前までに文献の準備とクリティークシートの作成

第 9～10 週 研究テーマに関連した文献レビューの作成

6. 成績評価の方法：

文献クリティーク（評価の視点：研究課題に関連した文献であるか、クリティークスキル）	20 点
研究課題絞込み（評価の視点：研究課題に関連した先行研究検討を行い、研究の意義を明確にするプロセス）	30 点
研究計画書の作成（評価の視点：簡潔・明快性、一貫性、新奇性、完遂性、倫理的配慮）	50 点
合計	100 点満点

7. 履修の条件：看護研究方法論Ⅰ，看護研究方法論Ⅱ，臨床看護学特論Ⅰ，臨床看護学特論Ⅱを履修済，あるいは履修中であること。

8. その他：修士論文作成の重要な科目であり，特別研究に継続する。

科目名	専門演習			担当教員：永田美和子	
科目名（英語）	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	421	授業終了後
1. 授業の概要： 高齢者看護学分野の研究の動向を踏まえ、高齢者の認知機能障害に関する研究指導を主として、学生の関心あるテーマに即した国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた個別指導をする。 研究分野としては、高齢者の運動支援の方法や認知機能の変化に対応した看護支援である。研究手法は、調査研究や面接法など、学生の研究テーマに即した量的・質的研究方法を指導する。 2. 到達目標： ①修士論文の意義について理解し、研究のプロセスを理解できる。 ②テーマに即した、研究目的、研究デザイン、研究方法、倫理的課題が理解できる。 ③テーマに即した、研究計画書を作成できる。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 修士論文とは、修士論文作成のプロセス 第 2 週 テーマ設定と関連文献の検索 第 3 週 文献検索と文献検討 ① 第 4 週 文献検索と文献検討 ② 第 5 週 研究枠組みの構築 第 6 週 研究デザインの構築 第 7 週 研究方法の構築 第 8 週 研究方法の構築 第 9 週 統計学的手法の理解 ① 第 10 週 統計学的手法の理解 ② 第 11 週 研究計画書の作成 ① 第 12 週 研究計画書の作成 ② 第 13 週 研究計画書の作成 ③ 第 14 週 倫理審査申請書の作成 ① 第 15 週 倫理審査申請書の作成 ② 4. テキスト：看護研究方法論で使用したテキスト 「バーンズ&グローブ 看護研究入門 第7班」黒田裕子、中木高夫、逸見功監修 「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院 参考文献：適宜紹介します 5. 準備学習： 授業内容に該当するテキスト、資料を講読する。文献クリティーク、研究計画書の作成などの課題の提出をする。 6. 成績評価の方法： 課題の内容 50 点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成） 研究計画書の作成 50 点（評価視点：計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理性への配慮の記載） 合計 100 点満点 7. 履修の条件：看護研究方法論（1 前）臨床看護学特論Ⅰ（1 前）、臨床看護学特論Ⅱ（1 後）を履修済、あるいは履修中であること。 8. その他：自分のテーマに関係する文献のクリティークを積極的に行い、先行研究の理解、自分の意見・見解のプレゼンテーションの準備を十分に行うこと。					

科 目 名	専門演習			担当教員：小西 清美	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 7	火曜日・木曜日 7 限

1. 授業の概要

女性の各ライフステージの性と生殖に関する健康問題から、院生の興味・関心あるテーマを選択させ、論文の研究の進め方を指導する。国内外の文献検索・文献検討をして、研究課題を明らかにさせる。研究過程を概観させ、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、倫理的配慮などを指導し、適切な研究方法を検討し、研究計画書を作成させる。また、研究計画が実施可能か、試験的に実施し、研究計画書を完成させる。1 年次で研究計画書が作成できるよう個別指導をする。

2. 到達目標

・女性の各ライフステージの性と生殖に関する健康問題の文献講読をして、研究課題が明確化できる。

・研究課題に関して、科学的方法での研究プロセスを理解できる。

・研究テーマや研究デザインの選定、研究計画書が作成できる。

・人を対象とした場合、倫理的配慮ができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週

修士論文の研究に取り組む前に

第 2 週

国内外の文献検索・文献検討 (1)

第 3 週

国内外の文献検索・文献検討 (2)

第 4 週

国内外の文献検索・文献検討 (3)

第 5 週

研究過程の概観

第 6 週

研究デザインの種類と選定 (1)

第 7 週

研究デザインの種類と選定 (2)

第 8 週

研究デザインの種類と選定 (3)

第 9 週

統計学的手法の理解 (1)

第 10 週

統計学的手法の理解 (2)

第 11 週

統計学的手法の理解 (3)

第 12 週

研究計画書の立て方 (1)

第 13 週

研究計画書の作成

第 14 週

研究計画書の試験的实施

第 15 週

研究計画書の完成

4. テキスト：

参考文献：「看護研究ガイドブック」、川口孝泰、医学書院

「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院

「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院

5. 準備学習：

課題の提出

6. 成績評価の方法

課題の内容（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成）

50 点

研究計画書の作成（評価視点：計画書の内容，研究方法の妥当性，倫理性への配慮の記載）

50 点

合計 100 点満点

7. 履修の条件：

看護研究方法論（1 前）臨床看護学特論Ⅰ（1 前），臨床看護学特論Ⅱ（1 後）を履修済，あるいは履修中であること。

8. その他：

研究計画を立案し，さらに特別研究の授業では計画に沿って実施できるようにする。

科目名	専門演習			担当教員：島田 友子	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 7	火曜日・木曜日 7 限
1. 授業の概要 女性とその家族に関する健康問題の視点より、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。 2. 到達目標 ・文献レビューの方法を修得し、研究課題の焦点化ができる。 ・焦点化した研究課題の背景を述べる。 ・研究課題に関して、科学的方法での研究プロセスを理解できる。 ・研究テーマや研究デザインの選定、研究計画書が作成できる。 ・人を対象とした場合、倫理的配慮ができる。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 修士論文の研究 ガイダンス 第 2 週 国内外の文献検索・文献検討 (1) 第 3 週 国内外の文献検索・文献検討 (2) 第 4 週 国内外の文献検索・文献検討 (3) 第 5 週 国内外の文献検索・文献検討 (3) 第 6 週 研究デザインの種類と選定 (1) 第 7 週 研究デザインの種類と選定 (2) 第 8 週 研究デザインの種類と選定 (3) 第 9 週 統計学的手法の理解 (1) 第 10 週 統計学的手法の理解 (2) 第 11 週 統計学的手法の理解 (3) 第 12 週 研究計画書作成 (1) 第 13 週 研究計画書作成 (2) 第 14 週 研究計画書作成 (3) 第 15 週 研究計画書作成 (4) 4. テキスト： 参考文献：「看護における研究」 南 裕子 (編集)、医学書院、2017 「よくわかる看護研究論文のクリティークー研究手法別のチェックシートで学ぶ」 牧本 清子、日本看護協会出版会、2014 「APA 論文作成マニュアル 第 2 版」 アメリカ心理学会 (著)、2011 5. 準備学習： 課題の提出 6. 成績評価の方法 課題の内容 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成) 50 点 研究計画書の作成 (評価視点：計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理性への配慮の記載) 50 点 合計 100 点満点 7. 履修の条件：看護研究方法論 (1 前)、臨床看護学特論 I (1 前)、臨床看護学特論 II (1 後) を履修済、あるいは履修中であること。 8. その他：研究計画を立案し、さらに特別研究の授業では計画に沿って実施できるようにする。					

授業科目名	専門演習			担当教員：松下聖子	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	研 227	火曜日 5 限

1. 授業の概要

小児看護学特論Ⅰと小児看護学特論Ⅱ、小児看護学分野における研究の動向を踏まえ、学生の関心あるテーマに即した研究を進めるための方法を指導する。国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた個別指導をする。

研究分野としては、入院児の生活環境の向上や子どもの生活リズムに関する研究、医療保育専門士やチャイルドライフスペシャリストなどによる子どもの支援のあり方、病気や障がいのある児とその家族への支援である。研究手法は調査研究を主体に指導をすすめる。また調査内容によっては、フィールドワークやヒアリングを用いた研究方法による質的研究を指導する。

2. 到達目標

①論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する

②小児看護学分野における研究課題を発見し、小児看護の向上と発展にどのように貢献できるか検討する

③修士論文作成に向けた研究のプロセスを理解し、研究テーマの選定、絞り込み、研究デザインの選定、具体的な研究方法について理解する

④研究課題に基づき、研究計画書を作成する一連の過程を通して、一貫性、整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ

⑤倫理的判断の必要性を理解し、倫理審査申請書が作成できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	修士論文とは、修士論文作成のプロセス
第 2 週	テーマ設定と関連文献の検索
第 3 週	文献検索と文献検討 ①
第 4 週	文献検索と文献検討 ②
第 5 週	研究デザインの構築 ①
第 6 週	研究デザインの構築 ②
第 7 週	質的研究手法の理解 ①
第 8 週	質的研究手法の理解 ②
第 9 週	統計学的手法の理解 ①
第 10 週	統計学的手法の理解 ②
第 11 週	研究計画書の作成 ①
第 12 週	研究計画書の作成 ②
第 13 週	研究計画書の作成 ③
第 14 週	倫理審査申請書の作成 ①
第 15 週	倫理審査申請書の作成 ②

4. テキスト・参考文献

看護研究方法論で使用したテキスト：「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院

「APA 論文作成マニュアル」 APA 江藤裕之他訳 医学書院

参考文献：適宜提示する

5. 準備学習：課題の提出

6. 成績評価の方法

課題の内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成）	50 点
研究計画書の作成（評価視点：計画書の内容、研究方法の妥当性、倫理性への配慮の記載）	50 点
合計	100 点満点

7. 履修の条件：看護研究方法論、臨床看護学特論Ⅰ、臨床看護学特論Ⅱを履修、または履修中であること。

8. その他：修士論文作成の重要な科目であり、特別研究に継続する。

科目名	専門演習			担当教員：鈴木 啓子	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 17	火曜日・金曜日 7 限
1. 授業の概要 精神看護学特論Ⅰと精神看護学特論Ⅱ，精神看護学分野における研究の動向を踏まえ，学生自身が関心あるテーマに即した研究を進めるための方法について学習する。国内外の論文のクリティックを重ねて，研究課題を絞り込み，適切な研究方法を検討し，研究の背景，文献検討，研究目的，研究デザイン，具体的な研究方法，倫理的配慮などについて学び，研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて，適切なフィールドの選定，倫理的配慮，看護実践記録やフィールドの十分な記録，適切な分析方法等を検討する。自己の研究課題や研究方法の追及過程については，演習授業において発表し，討議を行う。 2. 到達目標 ①論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する。 ②精神看護領域における研究課題を発見し，精神看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。 ③研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 ④研究課題にもとづき，研究計画書を作成する一連の過程を通して，一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。 ⑤倫理審査申請書の作成を通して，研究における倫理的感性を高める。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 専門演習の授業目的，内容，方法について概説する 第 2 週 看護研究，文献検索・講読に関する学術用語および基礎的知識，文献検討による課題の探求方法について概説する 第 3 週 文献検索および文献入手を図書館にて行った結果を報告し検討する 第 4 週 前半(教員による講義)研究デザインについて概説する① 後半(プレゼンテーションとディスカッション)授業目標に沿い，講読した精神看護研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 5 週 前半(教員による講義)研究デザイン構築に向けて概説する① 後半(プレゼンテーションとディスカッション)授業目標に沿い，講読した精神看護研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 6 週 前半(教員による講義)研究デザインの構築について概説する② 後半(プレゼンテーションとディスカッション)授業目標に沿い，講読した精神看護研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 7 週 質的研究方法について概説する 第 8 週 前半(教員による講義)質的研究方法で用いられるアプローチについて概説する 後半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する文献の中で質的研究方法を用いた文献における研究方法について検討する 第 9 週 統計的手法について概説する① 第 10 週 前半(教員による講義)統計学的手法について概説する② 後半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する文献の中で量的研究方法を用いた文献における研究方法について検討する 第 11 週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ① 後半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第 12 週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ② 後半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第 13 週 前半(教員による講義)研究計画書の作成について概説する ③ 後半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する研究計画について検討する 第 14 週 倫理審査申請書の作成と倫理審査受審について概説する 第 15 週 前半(プレゼンテーションとディスカッション)各自の研究課題に関する倫理的配慮のポイントについて発表，検討する 後半(教員による講評)まとめ 4. テキスト ・Nancy Burns, Susan, K. Grove(2013)/The Practice of Nursing Research : Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence ; 7th ed. Saunders 参考文献 ・Matthew B. Miles, A. M. Huberman(2013) Qualitative Data Analysis: A Methods Sourcebook ; Third ed. Sage Publications, Inc. 5. 準備学習：課題の提出 6. 成績評価の方法 課題の内容(評価視点:テーマとの整合性，論理的な文章構成) 20 点 授業中の活動(評価視点:コミットメント，課題探求への姿勢，プレゼンテーションの適切さ) 20 点 研究計画書の作成(評価視点:計画書の内容，研究方法の妥当性，倫理性への配慮の記載) 60 点 合計 100 点満点 7. 履修の条件:看護研究方法論 (1 前)，臨床看護学特論Ⅰ (1 前)，臨床看護学特論Ⅱ (1 後)を履修済，あるいは履修中であること。 8. その他:特になし					

科 目 名	専門演習			担当教員：大城 凌子	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 13	月曜日・木曜日 7 限

1. 授業の概要

在宅看護学特論Ⅱの講義や、在宅看護学分野の研究の動向を踏まえ、国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを1年次で行えるよう学生の研究経験に合わせた方法による指導をする。

研究分野としては、沖縄における文化を活かした高齢者への援助や看取り、住民の健康増進活動や参加する学生への教育などのテーマに関する指導を主に行い、アクションリサーチや質的、量的研究方法論を指導する。

2. 到達目標

①修士論文作成に向けた研究のプロセスを理解できる。

②研究テーマの選定、絞り込み、研究デザインの選定、具体的な研究方法について理解し、研究計画書が作成できる。

③倫理的判断の必要性について理解し、倫理審査申請書が作成できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	修士論文とは、修士論文作成のプロセス
第 2 週	テーマ設定と関連文献の検索
第 3 週	文献検索と文献検討 ①
第 4 週	文献検索と文献検討 ②
第 5 週	研究デザイン構築
第 6 週	質的研究法の理解 ①
第 7 週	質的研究法の理解 ②
第 8 週	質的研究法の理解 ③
第 9 週	統計学的手法の理解 ①
第 10 週	統計学的手法の理解 ②
第 11 週	研究計画書の作成 ①
第 12 週	研究計画書の作成 ②
第 13 週	研究計画書の作成 ③
第 14 週	倫理審査申請書の作成 ①
第 15 週	倫理審査申請書の作成 ②
第 16 週	倫理審査申請書の作成 ③

4. テキスト・参考文献

「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院

「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書

「フィールドワークの技法」佐藤郁也 新曜社

5. 準備学習： 課題の提出

6. 成績評価の方法

課題の内容（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成）	50 点
研究計画書の作成（評価視点：計画書の内容，研究方法の妥当性，倫理性への配慮の記載）	50 点
合計	100 点

7. 履修の条件：看護研究方法論（1 前），臨床看護学特論Ⅰ（1 前），臨床看護学特論Ⅱ（1 後）を履修済，あるいは履修中であること。

8. その他：修士論文作成の重要な科目であり，特別研究に継続する。

※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

科目名	専門演習			担当教員：田場 真由美	
科目名(英語)	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	看研 15	火曜日・金曜日 7 限
1. 授業の概要 公衆衛生看護学特論Ⅰと公衆衛生看護学特論Ⅱ，公衆衛生看護学分野における研究の動向を踏まえ，学生自身が関心あるテーマに即した研究を進めるための方法について学習する。国内外の論文のクリティークを重ねて，研究課題を絞り込み，適切な研究方法を検討し，研究の背景，文献検討，研究目的，研究デザイン，具体的な研究方法，倫理的配慮などについて学び，研究計画書を作成する。そのプロセスにおいて，適切なフィールドの選定，倫理的配慮，看護実践記録やフィールドの十分な記録，適切な分析方法等を検討する。自己の研究課題や研究方法の追及過程については，演習授業において発表し，討議を行う。 2. 到達目標 ①論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する。 ②公衆衛生看護領域における研究課題を発見し，公衆衛生看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する。 ③研究課題に関して適切な研究デザインならびに研究方法を選択する。 ④研究課題にもとづき，研究計画書を作成する一連の過程を通して，一貫性・整合性のある研究計画書の作成手順を学ぶ。 ⑤倫理審査申請書の作成を通して，研究における倫理的感性を高める。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 修士論文とは，作成過程について概説する 第 2 週 看護研究，文献検索・講読に関する学術用語および基礎的知識，文献検討による課題の探求方法について概説する 第 3 週 文献検索と文献検討① 文献検索および文献入手のために図書館を活用した結果を報告し検討する 第 4 週 文献検索と文献検討② 第 5 週 研究デザインの構築① 講読した公衆衛生看護研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 6 週 研究デザインの構築② 講読した公衆衛生看護研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，研究の概念枠組みと研究方法論について討論する 第 7 週 質的研究方法の理解① 第 8 週 質的研究方法の理解② 各自の研究課題に関する文献の中で質的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第 9 週 統計学的手法の理解① 第 10 週 統計学的手法の理解② 各自の研究課題に関する文献の中で量的研究方法を用いた文献における研究法について検討する 第 11 週 研究計画書の作成① 第 12 週 研究計画書の作成② 第 13 週 研究計画書の作成③ 第 14 週 倫理審査申請書の作成と倫理審査受審について概説する 第 15 週 前半(プレゼンテーションとディスカッション) 各自の研究課題に関する倫理的配慮のポイントについて発表，検討する 後半(教員による講評) まとめ 4. テキスト D. F. ポーリット&C. T ベック，近藤潤子(監訳)：看護研究 原理と方法 第 2 版、医学書院、2016. APA 江藤裕之他訳：APA 論文作成マニュアル、医学書院、2004. 市原清志：バイオサイエンスの統計学 南江堂、1990. 参考文献 前田樹海,江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール、医学書院、2017. 5. 準備学習 授業内容に該当するテキスト,資料を講読する。文献クリティーク,研究計画書の作成などの課題の提出をする。 6. 成績評価の方法 課題の内容(評価視点:テーマとの整合性, 論理的な文章構成) 20 点 授業中の活動(評価視点:コミットメント, 課題探求への姿勢, プレゼンテーションの適切さ) 20 点 研究計画書の作成(評価視点:計画書の内容, 研究方法の妥当性, 倫理性への配慮の記載) 60 点 合計 100 点満点 7. 履修の条件:看護研究方法論 (1 前), 臨床看護学特論Ⅰ (1 前), 臨床看護学特論Ⅱ (1 後) を履修済, あるいは履修中であること。 8. その他:特になし					

科 目 名	専門演習			担当教員：砂川 昌範	
科目名（英語）	Seminar in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	1～2	407	火 7 限目・木 6 限目
1. 授業の概要： 病態生理学的で学んだ内容および最新の病態生理学研究的動向を踏まえて、学生自身が関心のあるテーマに即した研究を遂行するための準備や方法を学習する。研究テーマに即した分野に関するこれまで報告された国内外論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、研究環境や研究リソースを考慮して、適切な研究方法検討し、研究計画書を作成する。					
2. 到達目標： 研究活動を自立的に遂行できる人材を育成することを目標にする。 1) 自ら論理的に論文を読み込み、抄読会で問題点や課題を提示できる。 2) 研究をとおして行う検証内容を吟味し、適切な作業仮説を立てる。 3) 研究デザインを適切に行う。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 回 専門演習の概要				砂川昌範	
第 2 回 文献検索方法 1				砂川昌範	
第 3 回 文献検索方法 2				砂川昌範	
第 4 回 文献の整理方法 1				砂川昌範	
第 5 回 文献の整理方法 2				砂川昌範	
第 6 回 研究デザインの方法 1				砂川昌範	
第 7 回 研究デザインの方法 2				砂川昌範	
第 8 回 統計方法 1（t 検定）				砂川昌範	
第 9 回 統計方法 2（カイ 2 乗検定）				砂川昌範	
第 1 0 回 統計方法 3（ノンパラメトリック検定）				砂川昌範	
第 1 1 回 統計方法 4（重回帰分析とロジスティック分析）				砂川昌範	
第 1 2 回 研究計画書作成 1				砂川昌範	
第 1 3 回 研究計画書作成 2				砂川昌範	
第 1 4 回 研究計画書作成 3				砂川昌範	
第 1 5 回 研究計画書作成 4				砂川昌範	
4. テキスト・参考文献 ①バイオサイエンスの統計学，南江堂、1990 年 ②StatView 多変量解析，オーエムエス出版，2013 年 ③Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance 8 Sue E. Huether, Mosby 1997					
5. 準備学習：講義に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。					
6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。 ・事前の資料準備と授業への参画度 20 点 ・レポート内容 20点 ・統計演習 20点 ・試 験 40点 ・合 計 100点満点					
7. 履修の条件：3 分の 2 以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。					
8. その他					